

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(簡易)

総合計画
施策番号

2-1-1

事務事業名	馬頭観音菩薩供養祭事務	所属部門	農林課 畜産係
町長公約			公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金だけの事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

[事業の概要・現状・課題]

田畑開墾や戦争などで地域社会の発展に貢献した馬に感謝するため、毎年7月第1月曜日に供養祭を畜産関係者で執り行っている。町は実行委員会の事務局となっており、実行委員は畜産関係団体等(酪農振興会・肉牛振興会・養豚振興会・馬事振興会・家畜商組合・地区代表者)で構成している。

[2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法]

地域では高齢化により地域にある馬頭観音を支えることが難しくなっており、町(実行委員会事務局)に対して合祀の相談を行う地域が出てきている。

実行委員会としては開拓時には畑作・畜産農家を問わず農業の発展に馬が大きく貢献した事実があることから、馬に対する感謝の気持ちが大切であると考えており、合祀後も合祀地域からの供養祭への参加が必要と考えている。こうした実行委員の意見を踏まえ、合祀相談時には合祀後の供養祭への参加等を前提に相談を受けている。

		内訳	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円						
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円						
		一般財源	円	0	0	0	0	0	0
		事業費計(A)	円	0	0	0	0	0	0
	人件費	正職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工	0.0111	0.0110				
人件費計(B)		円	86,353	85,777					
トータルコスト(A+B)		円	86,353	85,777					

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(簡易)

総合計画
施策番号

2-1-1

事務事業名	酪農ヘルパー支援事業	所属部門	農林課 畜産係
町長公約			公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金のみ <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		

[事業の概要・現状・課題]

酪農業は休日の取得等が困難なことから、酪農家の健康管理とゆとりある生活の実現を支援することを目的に利用組合が設立された。酪農家が傷病時に酪農ヘルパーを利用した場合の経済的負担を軽減するため、平成11年度から傷病時利用等に対して利用組合内で創設された互助制度に対して町が補助を行っている。

酪農家の飼養規模拡大、高齢化等に伴う労働力不足などが原因で、傷病利用数は増加傾向にあり、ヘルパー制度の重要性は増している。

平成22年度の補助制度改正により、地区の互助会への補助がなくなる一方、統合互助会(都道府県単位)が地区互助会を補助する形となった。これにより補助額の減少等から利用者負担が増加することを防ぐため、JA及び町の負担額を変更している。平成30年度より安定的な組合運営のため、利用料金の改定が行われた。

[2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法]

酪農家の労働力不足は顕在化しており、ヘルパー制度の重要性は高まっているため、2019年度以降についても継続して組合に対する支援は継続する。

		内訳	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円						
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円						
		一般財源	円	471,000	289,000	360,000	360,000	360,000	360,000
		事業費計(A)	円	471,000	289,000	360,000	360,000	360,000	360,000
	人件費	正職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
人工数(業務量)		人工	0.0029	0.0029					
人件費計(B)		円	22,561	22,614					
トータルコスト(A+B)		円	493,561	311,614					

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(通常)

総合計画
施策番号 2-1-1

事務事業名	哺育育成施設整備事業	所属部門	農林課 畜産係
町長公約	哺育育成施設の建設と運用	公約達成年次	2021年

◆ 事務事業の目的と効果

<p>1. 手段(事業の概要)</p> <p>町内酪農家が飼養する哺育育成牛の飼養管理を行うための施設整備に必要な各種調査、設計工事等を実施することにより、町内酪農家の労働負担軽減、飼養管理の向上、飼養規模の拡大等を目指す。</p>
<p>2. 対象(何を対象にしているか)</p> <p>施設整備数及び施設を利用する未経産牛(町内畜産農家が飼養する24ヶ月齢未満の乳牛)</p>
<p>3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか)</p> <p>施設利用する未経産牛の確保</p>
<p>4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか)</p> <p>利用農家における労働負担軽減、飼養管理の向上、飼養規模の拡大等による畜産業に振興</p>

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)	単位
① 哺育育成施設整備に係る工程	工程
②	
③	

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
① 哺育育成施設整備数	箇所
② 未経産牛	頭数
③	

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
① 利用(予定)件数	戸
②	
③	

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	単位
① 1戸あたりの農業生産額	千円
② 農業生産額	億円
③	

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
投入量	事業費	国・道支出金	円			551,897,000	50,000,000	50,000,000	0
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円		1,852,200				
		一般財源	円	0	3,990,600	1,155,591,000	150,000,000	150,000,000	0
	事業費計(A)		円		5,842,800	1,707,488,000	200,000,000	200,000,000	0
	人件費	正職員従事人数	人		3	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工		0.2290				
人件費計(B)		円	0	1,785,731					
トータルコスト(A+B)		円	0	7,628,531					
活動指標	①	工程		1	1	1	1	1	
	②								
	③								
対象指標	①	箇所		0	1	1	1	1	
	②	頭数		2,883	2,731	2,731	2,731	2,731	
	③								
成果指標	①	戸		22	22	22	22	22	
	②								
	③								
上位成果指標	①	千円		49,471.0	—	—	—	—	
	②	億円			314	314	314	314	
	③								

◆ 事務事業の現状と今後の取組

<p>1. 事務事業の現状と課題</p> <p>農家戸数の減少に伴う1戸あたりの飼養頭数の増加や担い手の高齢化による労働力不足、増頭に伴う牛舎等の容量不足、飼料価格の高止まりなど、本町酪農業には様々な課題がある。</p> <p>こうした町内酪農家が個々で解決することが難しい課題を公共として解決し、本町の酪農振興を行うため平成29年12月に「芽室町における酪農基盤整備構想」を策定した。</p>	<p>2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法)</p> <p>酪農基盤整備構想及び芽室町哺育育成施設整備基本計画に基づき哺育育成施設を整備する。建設工事は令和元年及び2年で実施予定。</p>
---	--

事務事業名	クリーン農業推進委員会運営事業	所属部門	農林課 畜産係
町長公約			公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金だけの事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

[事業の概要・現状・課題]

環境との調和に配慮しながら、安全・高品質な農畜産物を生産・供給する農業への取組を強めるために必要な対策の検討及び普及・啓発活動等を行い、クリーン農業の円滑な推進を図る。

[2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法]

町・JA・十勝農業改良普及センター等が参集する「酪農生産技術検討会」が実施する町内酪農家の乳質改善に資する技術研究の実施結果の報告、繁殖成績の向上、良質粗飼料生産の推進等を段階的に取り組む。これにより、芽室町農業振興5カ年計画に記載の各種目標の達成を目指す。

		内訳	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円						
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円						
		一般財源	円	0	0	0	0	0	0
		事業費計(A)	円	0	0	0	0	0	0
	人件費	正職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工	0.0061	0.0106				
人件費計(B)		円	47,455	82,658					
トータルコスト(A+B)		円	47,455	82,658					

事務事業名	家畜ふん尿処理施設整備事業	所属部門	農林課 畜産係
町長公約	家畜ふん尿処理施設の建設と町全体での処理計画の策定・実行	公約達成年次	2022年

◆ 事務事業の目的と効果

1. 手段(事業の概要) 町内酪農家から排出される家畜ふん尿等を処理する施設整備に必要な各種調査、設計、工事を実施することにより、家畜ふん尿等の有効活用、畜産環境の維持、畜産農家の労働力削減に結びつけ、畜産業の振興を行う。
2. 対象(何を対象にしているか) 畜産農家
3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 畜産業の振興
4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 本町農業全体の振興

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)	単位
① 家畜ふん尿処理施設整備数	箇所
② 各種協議会負担金額	円
③	

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
① 畜産農家戸数	戸
②	
③	

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
① 畜産物算出額	億円
②	
③	

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	単位
① 農業算出額	億円
②	
③	

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
投入量	事業費	国・道支出金	円				3,000,000	200,000	
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円		4,061,000				48,000
	人件費	一般財源	円	0	4,100,900	10,000	3,000,000	700,000	0
		事業費計(A)	円		8,161,900	10,000	6,000,000	900,000	48,000
		正職員従事人数	人		3	3	3	3	3
人件費	人工数(業務量)	人工		0.3062					
	人件費計(B)	円	0	2,387,733					
	トータルコスト(A+B)	円	0	10,549,633					
活動指標	①	箇所		0	0	0	1	1	
	②	円		0	10,000	10,000	10,000	10,000	
	③								
対象指標	①	戸		84	84	84	84	84	
	②								
	③								
成果指標	①	億円		106.1	97.6	97.6	97.6	97.6	
	②								
	③								
上位成果指標	①	億円		293.8	314.0	314.0	314.0	314.0	
	②								
	③								

◆ 事務事業の現状と今後の取組

1. 事務事業の現状と課題 売電に必要な道内基幹系送電線に係る空き容量が全道的に無いため、家畜ふん尿処理施設の維持管理に必要な経費の確保が困難となり、事業が実施できない状況。	2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) 系統空き容量が発生する可能性は少ないと考えられる。今後は、JAなど関係機関との協議、エネルギーの地産地消を含めた先進的な取組を行っている事例の学習、国の補助事業等に係る情報収集を行い、事業手法の検討を進め、事業の方向性を検討する。
--	--

事務事業名	家畜衛生管理事業	所属部門	農林課 畜産係
町長公約			公約達成年次

◆ 事務事業の目的と効果

1. 手段(事業の概要) 計画的な自衛防疫を行い伝染病発生を未然に防止する芽室町家畜伝染病自衛防疫協議会の事務局を担う。 また、家畜の法定検査の支援と検査手数料に対する補助を行うとともに、伝染病防疫措置に対する支援を行う。 なお、畜産農家で伝染病の発生があり、減収が確認された場合、当該農家が芽室農協から借り入れる特別資金に対して利子補給を行う。
2. 対象(何を対象にしているか) 町内で家畜を飼養する農家等
3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 法定検査を円滑に行い、家畜伝染病の発生を未然に防ぐ。伝染病が発生したときは早期の事態終息及びその後の経営安定を図る。
4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつか) 畜産業の発展

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)	単位
① 法定検査手数料助成額	千円
② 啓発活動	回
③ 利子補給額	千円

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
① 家畜飼養頭数	頭
②	
③	

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
① 法定伝染病の発生頭数	件
②	
③	

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	単位
① 1戸あたりの農業生産額	千円
② 農業生産額	億円
③	

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
投入量	事業費	国・道支出金	円	11,604	2,667	23,000	300,000	200,000	10,000
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円						
		一般財源	円	94,573	59,928	245,000	1,063,000	800,000	90,000
		事業費計(A)	円	106,177	62,595	268,000	1,363,000	1,000,000	100,000
人件費	人員	正職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工	0.3567	0.3568				
		人件費計(B)	円	2,774,971	2,782,309				
		トータルコスト(A+B)	円	2,881,148	2,844,904				
		活動指標	①	千円	34	0	31	1,321	968
②	回		6	10	5	5	5	5	
③	千円		73,027	62,595	52,162	41,844	31,297	20,865	
対象指標	①	頭	44,726	45,006	45,000	45,000	45,000	45,000	
	②								
	③								
成果指標	①	件	2	1	1	1	1	1	
	②								
	③								
上位成果指標	①	千円	52,397	49,471	—	—	—	—	
	②	億円	—	—	314	314	314	314	
	③								

◆ 事務事業の現状と今後の取組

1. 事務事業の現状と課題 平成28年度に十勝管内家きん飼養農家で高病原性鳥インフルエンザが発生した後、北海道では家きん飼養農家ごとの防疫計画を策定した。また、北海道の防疫対策要綱や伝染病毎の対応マニュアルが大幅に改訂された。 本町でも平成22年度に宮崎県で口蹄疫が発生したことなどをきっかけに町の防疫対応マニュアルを策定しているが、その内容は道の防疫要綱等に準拠した内容であるため、道の改訂に併せて町マニュアルの改訂が必要となっている。	2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) 法定検査に対する支援や検査手数料に対する補助、特別資金に対する利子補給等は安定的な畜産経営のために今後も継続して実施していく必要がある。 本町の防疫対応マニュアルについては道の改訂内容等を踏まえ必要に応じて改訂を行う。
---	---

事務事業名	家畜個体識別システム事務	所属部門	農林課 畜産係
町長公約			公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金のみ事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

[事業の概要・現状・課題]
 生産者が行う牛の個体識別耳標装着や出生・異動報告等を円滑に行うための支援をするとともに、制度の適正な運用を維持するための立入検査を支援する。町管理農家の牛の飼養履歴を明確にし、牛肉・乳製品の安全性確保と消費の維持・拡大を行う。

[2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法]
 牛の個体識別耳標装着と出生・異動報告等を円滑に行うため、農家の立入検査等について地元自治体として本事務を継続して実施する必要がある。

		内訳	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円						
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円						
		一般財源	円	0	0	0	0	0	0
		事業費計(A)	円	0	0	0	0	0	0
	人件費	正職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工	0.0482	0.0129				
人件費計(B)		円	374,975	100,594					
トータルコスト(A+B)		円	374,975	100,594					

事務事業名	家畜品評会支援事業	所属部門	農林課 畜産係
町長公約			公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金だけの事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

[事業の概要・現状・課題]

個体改良に努めた成果を評価するとともに、今後の改良意欲を高め、生産性の向上を図り、畜産経営の安定につなげることを目的に開催されている家畜品評会に対する支援を行うことを目的に事業を実施。
出陳者の減少により品評会の開催が中止されるなど、そのあり方について検討が必要となっている。

[2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法]

家畜品評会への支援を継続する。ただし、町単位で開催される品評会については出陳者が減少し開催できていないため、農協等関係機関と協議を行い、町としての支援のあり方について検討を行う。

		内訳	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円						
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円						
		一般財源	円	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
		事業費計(A)	円	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	人件費	正職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
人工数(業務量)		人工	0.0031	0.0198					
人件費計(B)		円	24,117	154,399					
トータルコスト(A+B)		円	34,117	164,399					

事務事業名	死亡家畜処理施設参画事業	所属部門	農林課 畜産係
町長公約			公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input checked="" type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金だけの事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

[事業の概要・現状・課題]

十勝農協連が設置、運営する死亡家畜専用処理施設の設置費用負担金と運営費負担金を支出する。

[2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法]

運営費の負担金支出については、従前同様事務を行う。

		内訳	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円						
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円						
		一般財源	円	24,782	24,695	27,000	27,000	27,000	27,000
		事業費計(A)	円	24,782	24,695	27,000	27,000	27,000	27,000
	人件費	正職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
人工数(業務量)		人工	0.0016	0.0063					
人件費計(B)		円	12,447	49,127					
トータルコスト(A+B)		円	37,229	73,822					

事務事業名	草地整備事業	所属部門	農林課 畜産係
町長公約		公約達成年次	

◆ 事務事業の目的と効果

1. 手段(事業の概要)

2. 対象(何を対象にしているか)

3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか)

4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつか)

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)		単位
①		
②		
③		

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)		単位
①		
②		
③		

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
①		
②		
③		

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		単位
①		
②		
③		

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	国・道支出金	円						
	地方債	円						
	その他(使用料等)	円						
	一般財源	円	0	0	0	0	0	0
	事業費計(A)	円						
人件費	正職員従事人数	人						
	人工数(業務量)	人工						
	人件費計(B)	円	0	0				
	トータルコスト(A+B)	円	0	0				
活動指標	①							
	②							
	③							
対象指標	①							
	②							
	③							
成果指標	①							
	②							
	③							
上位成果指標	①							
	②							
	③							

◆ 事務事業の現状と今後の取組

<p>1. 事務事業の現状と課題</p> <p>平成18～22年度に道営草地整備事業を、平成26～29年度に公社営草地整備事業を実施し、町内畜産農家及び町営牧場の草地・施設等の改善を進めてきた。</p> <p>一般的に草地更新後、5～10年程度経過すると雑草率が50%を超えと言われており、継続した草地更新等の実施は必要となっている。</p> <p>町営牧場においても牛の診療・人工授精等を行う追い込み柵の整備が必要となっている。</p> <p>光勇牧場隣接山林所有者から、山林の売却意向があり、JAが土地を購入、町に寄附する予定。町は寄附を受けた土地の草地造成について本事業を活用し実施する予定。</p>	<p>2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法)</p> <p>今後の年度毎の事業スケジュールは次のとおり。</p> <p>令和元年度 事業量調査等計画策定準備 令和2年度 事業計画策定 令和3～6年度 事業実施</p>
---	--

事務事業名	畜産クラスター協議会運営事業	所属部門	農林課 畜産係
町長公約			公約達成年次

◆ 事務事業の目的と効果

1. 手段(事業の概要) 町・農業委員会・JA・十勝農業改良普及センター・十勝農業共済組合が構成する芽室町畜産クラスター協議会は、畜産クラスター計画に基づき、町内酪農家に対する要望調査の実施や協議会での議論を通じて、施設整備事業等を実施。これにより町内酪農家の飼養規模の拡大、飼養管理の改善など、収益力向上、生産基盤の強化につながる取組を行う。
2. 対象(何を対象にしているか) 畜産農家
3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 畜産業の振興
4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 本町農業全体の振興

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)	単位
① 芽室町畜産クラスター協議会補助金	円
② 芽室町畜産クラスター協議会開催回数	回
③	

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
① 畜産農家戸数	戸
②	
③	

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
① 畜産物算出額	億円
②	
③	

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	単位
① 農業算出額	億円
②	
③	

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
投入量	事業費	国・道支出金	円			84,573,000	557,649,000		
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円						
		一般財源	円	75,000	75,000	75,000	75,000	75,000	
	事業費計(A)		円	75,000	75,000	84,648,000	557,724,000	75,000	75,000
	人件費	正職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工	0.2333	0.0838				
		人件費計(B)	円	1,814,973	653,468				
	トータルコスト(A+B)		円	1,889,973	728,468				
	活動指標	①	円	75,000	75,000	75,000	75,000	75,000	75,000
②		回	2	2	1	1	1	1	
③									
対象指標	①	戸	85	84	84	84	84	84	
	②								
	③								
成果指標	①	億円	102.8	106.1	97.6	97.6	97.6	97.6	
	②								
	③								
上位成果指標	①	億円	314.9	293.8	314.0	314.0	314.0	314.0	
	②								
	③								

◆ 事務事業の現状と今後の取組

1. 事務事業の現状と課題 後継牛不足、1戸あたり飼養頭数増に伴う労働力不足など生産基盤の弱体化が懸念されている。平成28年度より国の畜産クラスター事業を活用し、地域一体となって収益力向上に向けた取組を実施。地域における協議会の設立が事業実施要件であったため、平成27年度に芽室町畜産クラスター協議会を設立。 日EU・EPAやTPP11の合意等、国際的な競争力強化が求められる中、農業の基盤整備につながる本事業の役割は非常に重要なものとなっている。	2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) 平成29年12月に策定した酪農基盤整備構想に基づき整備する哺育育成施設の建設費用の財源として、令和元年度・2年度の2か年で補助事業活用を予定。
--	--

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(簡易)

総合計画
施策番号

2-1-2

事務事業名	畜産業を振興するための基本事務	所属部門	農林課 畜産係
町長公約			公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金だけの事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

[事業の概要・現状・課題]

町内の家畜飼養状況、国の畜産振興策の把握等、必要な調査・情報収集等を行い本町畜産業の振興を図り、農業全体の振興に結びつける。
 畜産業の振興のみならず、家畜防疫や災害対応の面から家畜の飼養状況、飼養形態、畜舎の配置等の把握は非常に重要となっている。
 畜産に関する環境規制については今後厳しくなることが想定され、法に基づく適正な畜産経営が求められることから、北海道、JA等関係機関と連携して、必要に応じて現地巡回指導等を継続して行う必要がある。

[2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法]

今年度は災害対応として酪農家を対象とした非常用電源整備事業を実施する。国の畜産振興策の把握、家畜飼養状況等の調査は継続して行う。

		内訳	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円						
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円						
		一般財源	円	3,123,436	354,906	3,351,000	351,000	351,000	351,000
		事業費計(A)	円	3,123,436	354,906	3,351,000	351,000	351,000	351,000
	人件費	正職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
人工数(業務量)		人工	0.1311	0.1316					
人件費計(B)		円	1,019,901	1,026,210					
トータルコスト(A+B)		円	4,143,337	1,381,116					

事務事業名	畜産団体参画事業	所属部門	農林課 畜産係
町長公約			公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金だけの事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

[事業の概要・現状・課題]

町内外の畜産団体の活動を支援するため、負担金を支出し、畜産に関する情報を得るとともに、各団体で実施する事業が円滑に行われるようにする。

平成22年度に酪農を基幹産業とする町村交互の連携及び酪農畜産経営の安定を図るため「北海道酪農振興町村長会議」に参加した。町外では畜産関連団体の統廃合が進んでおり、平成23年度には北海道草地協会が解散した。

本町を含め全国的に畜産・酪農の基盤整備に対する要望が強く、こうした地域の要望を国等へ届けるための中央要請活動を行っている畜産関連団体の重要性は高まっている。

[2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法]

負担金の支出を行うとともに、畜産関連団体の情報収集等を行い、畜産業の振興を通じて本町農業全体の振興に結びつける。

		内訳	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円						
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円						
		一般財源	円	59,950	59,950	60,000	60,000	60,000	60,000
		事業費計(A)	円	59,950	59,950	60,000	60,000	60,000	60,000
人件費	人件費	正職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工	0.0064	0.0079				
		人件費計(B)	円	49,789	61,604				
		トータルコスト(A+B)	円	109,739	121,554				

事務事業名	町営牧場管理運営事業	所属部門	農林課 畜産係
町長公約			公約達成年次

◆ 事務事業の目的と効果

1. 手段(事業の概要) 町内酪農家が飼養する搾乳後継牛(6か月齢から24か月齢程度)の預託管理を行う。
2. 対象(何を対象にしているか) 町内酪農家が飼養する6ヶ月齢から24ヶ月齢程度の乳牛
3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 適正な増体重の確保と人工授精の実施により、優良な搾乳後継牛を育成する。
4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 畜産農家における自給粗飼料及び労働力の補完と良質な後継牛の確保に結びつける。

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)	単位
① 入牧頭数(実頭数)	頭
② 入牧頭数(延べ頭数)	頭
③	

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
① 未経産牛	頭
②	
③	

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
① 増体重	g/日
② 受胎率	%
③ 死産率	%

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	単位
① 1戸あたりの農業生産額	千円
② 農業生産額	億円
③	

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
投入量	事業費	国・道支出金	円						
		地方債	円						
		その他(使用料等)	円	25,564,570	19,557,989	23,918,000	24,000,000	24,000,000	24,000,000
		一般財源	円	19,084,096	21,360,993	22,748,000	21,000,000	21,000,000	21,000,000
	事業費計(A)		円	44,648,666	40,918,982	46,666,000	45,000,000	45,000,000	45,000,000
	人件費	正職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
人工数(業務量)		人工	1,0285	0,9753					
人件費計(B)		円	8,001,283	7,605,343					
トータルコスト(A+B)		円	52,649,949	48,524,325					
活動指標	①	頭	696	596	613	613	613	613	
	②	頭	95,457	79,445	85,392	85,392	85,392	85,392	
	③								
対象指標	①	頭	2,655	2,883	2,731	2,731	2,731	2,731	
	②								
	③								
成果指標	①	g/日	311.1	327.4	350.0	350.0	350.0	350.0	
	②	%	72.4	70.8	80.0	80.0	80.0	80.0	
	③	%	0.4	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
上位成果指標	①	千円	52,397	49,471	—	—	—	—	
	②	億円	—	—	314	314	314	314	
	③								

◆ 事務事業の現状と今後の取組

1. 事務事業の現状と課題 飼料価格の高止まりや天候不順による粗飼料不足、品質不良など、畜産経営を取り巻く環境は悪化している。夏期放牧の実施は、町内酪農家の労働力軽減や自給飼料の補完、後継牛の育成など経営コスト低減や経営体質強化につながっており、町営牧場の果たす役割は重要性を増している。	2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) 平成29年12月に策定した「芽室町における酪農基盤整備構想」に基づき、哺育育成施設整備による通年預託の実施や入牧料の改定等、町営牧場の運営体制強化を行っていく。
---	---